

情報・通信システム分野の新事業コンセプト Human Dreams. Make IT Real.

近年、情報端末の多様化と爆発的な増加を背景に、生活やビジネスのあらゆる面でITに求められる役割は大きく変化している。これに伴い、日立グループは情報・通信システム事業における従来のコンセプトであるuVALUEを見直し、2012年6月、新たな事業コンセプトとしてHuman Dreams. Make IT Real.を策定した。そこに込められた意味や思いについて、コンセプト策定プロジェクトで中心的な役割を担った二人に聞いた。



「日立イノベーションフォーラム 2012」での新事業コンセプトの展示

インフラ技術とITの融合

スマートフォンの急速な普及に代表されるように、ユビキタス情報社会はほぼ実現し、私たちの暮らしは大きく変わりました。IT (Information Technology) は今や社会に不可欠なインフラであり、そのあり方も「所有」から「利用」へとサービス化が加速しています。

日立グループは現在、社会イノベーション事業のグローバル展開を強化していますが、ITは、電力システムや交通システムなど社会インフラの分野においても重要な役割を担っています。インフラ技術と先進のITを融合させることで、新しい価値を提供できるわけです。今回、新たに策定した情報・通信システムの事業コンセプト Human Dreams. Make IT Real. は、そのような社会イノベーションを支えるIT戦略の方向性を示すものです。

人々の夢を実現するIT

このコンセプトは、二つの要素で構成されます。前半のHuman Dreams. には、人々の夢や社会のあるべき姿など、地球上にあるさまざまな夢に貢献したいという思いを込めました。従来のように効率や経済性を追求してビジネスの成功を願うだけでなく、これからのITは社会問題や地球環境などの課題解決に貢献し、人々の幸せを支えなければならないという、全体調和をめざす共生の思想に基づいています。

後半のMake IT Real. は、そうしたさまざまな夢をITで実現するという、いわば私たちの宣言です。Realという言葉には「実現」だけでなく、「実際の」という意味も込めました。

これは、現場のリアルな情報を最大限に活用して夢を実現していくという考えに基づくものです。表現はシンプルですが、それぞれの言葉に、日立グループの事業の方向性を示す決意表明としてのメッセージを織り込みました。

これまではなかった価値の提供へ

二つ目の「実際の」という意味のRealは、今後の事業の具体的な方向性としても重視すべき言葉です。現在、機械どうしが通信ネットワークを介して自律的に情報をやり取りするM2M (Machine to Machine) やリアルタイムコンピューティングが注目されています。その実現には、機械や設備、あるいは人間が発する膨大で多種多様な現場の情報、つまりビッグデータの活用が欠かせません。

日立グループには、これまで幅広い分野で社会インフラの構築を手掛けてきた実績があり、それに伴う貴重な情報を大量に蓄積しています。それらをITと融合させれば、プラントの稼働監視や保守、公共交通機関のさらなる安全性・快適性や効率的なメンテナンスに貢献するなど、従来はなかったようなエクスペリエンス (経験価値) を提供することができると考えています。

まさに社会イノベーション事業の核となるのは、そうしたリアルなビッグデータの利活用であり、設備や施設、人、モノをつなぐ技術です。この新事業コンセプトの下、日立グループは、お客様の課題解決や社会貢献につながるサービス志向のITをめざしていきます。



日立製作所 情報・通信システム社 経営戦略室 ブランド・コミュニケーション本部の大橋行彦 本部長 (左)、デザイン本部の須賀公士 主管デザイナー (右)